別記第２号様式

平成２１年度　中間評価調書

機 関 名　アイヌ民族文化研究センター
研究責任者　研究課長　古原　敏弘
研究担当者　研究課長　古原　敏弘

課題番号	アイヌ文化一般2105	研究課題名	道南地域のアイヌ民族資料に関する調査研究
課題担当者	1　人		

共同研究機関（協力機関）	研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
						（新･北海道総合計画） 基本構想編　第3章政策展開の基本方向 ・人々が互いに尊重しあう社会づくり ・アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重される社会の実現

研究期間及び所要見込額（千円）	17　年度～22　年度	前年度以前	当年度	翌年度以降	全体所要額
		439 (　439　)	100 (　100　)	100 (　100　)	639 (一財　639　)

研究の概要

○研究背景
・研究のニーズ
道南地域は、19世紀半ば頃までは多くのアイヌが居住していたことが記録に明らかであるが、アイヌ民族資料の所在については、調査研究の蓄積が極めて乏しく地域である。当センターにおいては、平成11～15年度に「ピリカ会関係資料の調査研究」として渡島支庁管内森町を中心として調査を行った結果、近隣の地域にも、未だ公に知られていない資料や未整理の資料が少なからず存在するとの見通しが得られたところである。このため、道南地域における資料や研究の蓄積をより一層進めていく必要がある。
・道が取り組む必要性
アイヌの歴史に対する理解の促進につながるものであるとともに、道南地域全体のアイヌ文化を総合的に明らかにする基礎的な研究であり、道立の研究機関が行う必要がある。
・関係機関等との連携・役割分担
関係地域市町村の資料所蔵機関（博物館等）との連携・協力を図りながら、調査を進める。
・これまでの研究成果・知見、外部機関の知見等の活用の考え方
すでに蓄積のある海外資料調査の成果を、比較研究資料として活用する。

○研究目的
・アイヌ文化研究において特に資料や研究が乏しいとされてきた渡島・桧山及び後志西南部地方に関するアイヌ民族資料の所在調査と内容分析を行い、これらの地域におけるアイヌの文化と歴史を明らかにする。

○研究内容
・生活技術分野の民族資料調査に、歴史分野の文書資料調査を加え、調査の展開によっては言語分野も分析に加え、総合的・学際的なアイヌ文化に関する基礎資料のデータ収集と分析を図る。

研究の進捗状況

○直近の研究課題評価における総合評価意見及びそれに対する取り組みの状況（直近評価に対する対応の適切性）
(評価)本研究はアイヌ文化と歴史を明らかにするため、調査研究の蓄積が極めて欠しい道南地域におけるアイヌ民族資料に関するデータ収集と分析を行うものであり、(中略)当初の計画どおり進められており今後とも着実に研究を進める必要がある。
(対応)引き続き、調査にあたっては各関係市町村の資料所蔵機関と連携協力を図りながら、資料の所在情報の把握に努めるとともに、資料に関する情報の収集と内容分析を進める。

直近の研究課題評価結果
平成19年度　中間評価
【自己評価】Ⓐ　B　C
【総合評価】Ⓐ　B　C

○研究開始後の事情変更の有無及び対応の状況（状況変化への対応の適切性）
事情の変更はない。

○年次別目標（事前評価）とそれに対応する実績（進捗度・目標達成度）

主な目標（項目）事前評価［　年次　］		対応する実績等	達成度
後志・桧山管内の資料調査	[平成17～18]	後志管内及び桧山管内で資料の所在調査を行い、新たな資料の所在を確認。目録作成。	予定どおり進捗した。
渡島管内の資料調査	[平成19～20]	渡島管内（長万部）での資料調査行い、新たな資料の確認の所在を確認。目録作成。	予定どおり進捗した。
補足調査・内容分析 とりまとめ	[平成21] [平成22]	渡島、檜山、後志管内で補足調査を行うとともに、内容分析、取りまとめを行い、資料目録の作成を行う。	

今後の見通し

○今後の研究の進め方
現在のところ、年次別目標のとおりに進捗しており、引き続き計画的に調査研究を進める。
○成果の活用策（成果の活用の可能性）
資料目録を作成し、解説を付してとりまとめ、公刊する。
アイヌ史、地域史の研究・学習の資料として活用することが期待できる。
当センターにおいて、資料情報のデータベースを作成し、アイヌ文化に関する比較研究の基礎資料として一般に公開・提供を図る。

【個別評価】a・b・c				
	直近評価に対する対応の適切性	【 a 】	進捗度・目標達成度	【 a 】
	状況変化への対応の適切性	【 a 】	成果の活用の可能性	【 a 】

【自己評価】Ⓐ・B・C	【説　明】 本調査研究により、道南地域のアイヌ民族資料の存在が明らかになってきており、計画どおり進捗していることから、引き続き研究を行う必要がある。
【総合評価】Ⓐ・B・C	【意　見】本研究は、アイヌ文化と歴史を明らかにするため、資料や研究が乏しい道南地域に関するアイヌ民族資料のデータ収集と分析を行うものであり、後志・檜山管内の資料調査に続き渡島管内も調査を終え、新たな資料を見出すことや目録を作成するなど、当初の計画どおり取り組みが進められており、今後とも着実に研究を進める必要がある。

(A)当初（事前評価時点）の計画どおり、または計画以上に取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる
(B)当初（事前評価時点）の計画に比べ、やや遅れが見られるが、概ね目標は達成しており、今後効率化などの努力により一定の研究成果が見込まれる
(C)今後の見通し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である
(a)極めて高い、適切である　(b)高い、概ね適切である　(c)低い、改善の余地がある